

## 特集 飛驒の弥生文化



発掘現場に行こう!!

**東野遺跡・八幡前遺跡  
赤保木遺跡・野内遺跡**

考古学教室②

縄文土器をみて学ぶこと

センター掲示板

現地説明会報告(東野遺跡)ほか

情報BOX

開催迫る!発掘速報展ほか



# 『弥生ひだびとの足跡をたどる』

## 謎の多い 飛驒の 弥生遺跡

飛驒では、現在までに弥生時代の遺跡が34箇所で見つかっています。それらの遺跡は、飛驒川流域と宮川流域に集中しており、高原川流域でも弥生土器が確認されています。また、下呂市萩原町上呂では2個の銅鐸が発見されています。これらの遺跡のうち、竪穴住居跡などの遺構が見つかった遺跡は10遺跡に過ぎません。特に、庄川流域では、今のところ弥生時代の遺跡は見つかっていません。まだまだ飛驒の弥生時代はよくわかっていないのが現状です。しかし、その断片的な資料や調査例から、飛驒の弥生文化をかいま見ることができます。



飛驒の弥生集落(想像図)



水神平式土器  
(中野大洞平遺跡)

## 前期-空白の弥生前期 東海地方の影響?

東海地方に見られる、貝殻を使った文様(条痕文)が全面に施された水神平式土器は、11遺跡で確認されています。しかし、竪穴住居跡などの遺構に伴うものは確認されていません。この土器は、主に縄文遺跡での土器片の出土に限られ、飛驒の弥生前期はまさに空白の時期といえます。しかし、土器片の存在から前期弥生時代人の足跡は確実に残されており、この時期の竪穴住居跡などが発見される日も近いと考えられます。

## 中期-飛驒独自の弥生文化が花開く

弥生時代中期になると飛驒独自の弥生文化が花開きます。「内垣内式」と呼ばれ、横方向に矢羽状の文様が施される「横羽状文甕」が出現します。この甕は他地域には見られない、飛驒独特の土器型式で、飛驒地方の中では特に高山市を中心とした地域で確認できます。

この横羽状文甕に見られる飛驒の独自性がどのような経緯で形成されたのかは、横羽状文甕の前後の土器の様子がわかっておらず、大きな謎といえます。



横羽状文甕  
(ウバガ平遺跡)



受け口状口縁をもつ北陸系土器

### 飛驒地方の弥生遺跡

番号	遺跡名	所在地	時期	遺構	番号	遺跡名	所在地	時期	遺構
1	峰一合遺跡	下呂市森	後期	竪穴住居跡	18	ツルネ遺跡	高山市江名子町	後期	方形周溝墓
2	下島遺跡	下呂市乗政	中期		19	向畑遺跡	高山市江名子町	後期	竪穴住居跡
3	桜洞遺跡	下呂市萩原町桜洞	前期		20	白元遺跡	高山市漆垣内町	前期	
4	向洞遺跡	下呂市萩原町桜洞	前期		21	前平山稜遺跡	高山市松本町	中期	
5	上呂銅鐸出土地	下呂市萩原町上呂	-		22	西ノ山遺跡	高山市上岡本町	中期	
6	長瀬上野遺跡	下呂市小坂町長瀬	前期		23	飛驒国分尼寺跡	高山市岡本町	前期-中期	竪穴住居跡
7	阿弥陀堂遺跡	下呂市小坂町赤沼田	前期		24	ウバガ平遺跡	高山市上切町	中期	
8	森ヶ平遺跡	下呂市小坂町無数原	前期		25	赤保木遺跡	高山市赤保木町	中期	竪穴住居跡
9	亀ヶ平遺跡	大野郡宮村亀ヶ平	中期		26	あまいだ平遺跡	大野郡丹生川村山口	前期	
10	内垣内遺跡	高山市新宮町	中期		27	宮ノ下遺跡	吉城郡国府町上広瀬	中期	
11	打越遺跡	高山市新宮町	後期	溝	28	安城寺遺跡	吉城郡国府町上広瀬	後期	竪穴住居跡
12	山王洞遺跡	高山市西ノ一色町	中期		29	蓑輪石橋遺跡	吉城郡国府町蓑輪	中期	
13	山口平遺跡	高山市森下町	中期		30	塚田遺跡	吉城郡国府町半田	後期	竪穴住居跡
14	サンネガ洞遺跡	高山市千島町	中期		31	中野大洞平遺跡	飛驒市古川町中野	前期-後期	竪穴住居跡・方形周溝墓
15	薬師野遺跡	高山市江名子町	中期-後期	竪穴住居跡	32	下田遺跡	飛驒市河合町角川	前期	
16	ひじ山遺跡	高山市江名子町	前期-後期		33	田影遺跡	吉城郡上宝村本郷	後期	
17	加茂神社付近	高山市江名子町	後期		34	宮ノ上遺跡	吉城郡上宝村吉野	前期	



弥生時代後期の竪穴住居跡と床面に埋められた甕(中野大洞平遺跡)

## 後期-北陸地方との交流

弥生時代後期のなかでも特に末頃には北陸地方との交流がうかがわれます。飛驒市の中野大洞平遺跡では、弥生時代末の竪穴住居跡から北陸地方に特有の受け口状の口縁をもつ土器が見つかります。弥生時代後期末の北陸系土器は国府町・塚田遺跡、安城寺遺跡などでも見つかります。



ぎん発!  
2004発掘調査最前線

# 発掘現場に行こう!!



## ① あかほぎ 赤保木遺跡(高山市)

縄文 弥生 古墳 古代

### 土器の敷き詰められた石囲炉を発見!!



8号住居跡

いしがこい

赤保木遺跡は、見置山(標高997m)の山裾に広がる扇状地上に立地しています。高山市の風土記の丘史跡公園に隣接し、日当たりが良く、遠くに乗鞍岳等の飛騨の山々を見ることができます。

調査(10月8日現在)では、縄文時代中期後半の竪穴住居跡18軒、弥生時代の竪穴住居跡2軒などが確認できました。縄文時代から古墳時代にかけての集落跡と考えられます。縄文時代の竪穴住居跡のうち9軒には、石囲炉

がほぼ完全な形で残っており、さらにそのうちの1軒(8号住居跡)の炉には、縄文時代中期後半の複数の土器片が、文様のある表側を上にして丁寧に敷き詰められていました。さらに別の住居跡においては、突起のついた縄文土器(動物意匠土器)が出土しました。



動物意匠土器

## ③ はちまんまえ 八幡前遺跡(美濃市)

縄文 弥生 古墳

### 横穴式石室をもつ古墳を発見!!

八幡前遺跡は松鞍山(標高316m)の麓、長良川鉄道松森駅の北東にあります。今年の5月から発掘調査を開始し、現在までに縄文時代から古墳時代までの遺構、縄文土器・土師器・須恵器などの遺物を確認しています。その中でも、特に注目されるのが、横穴式石室をもつ古墳1基を発見したことです。



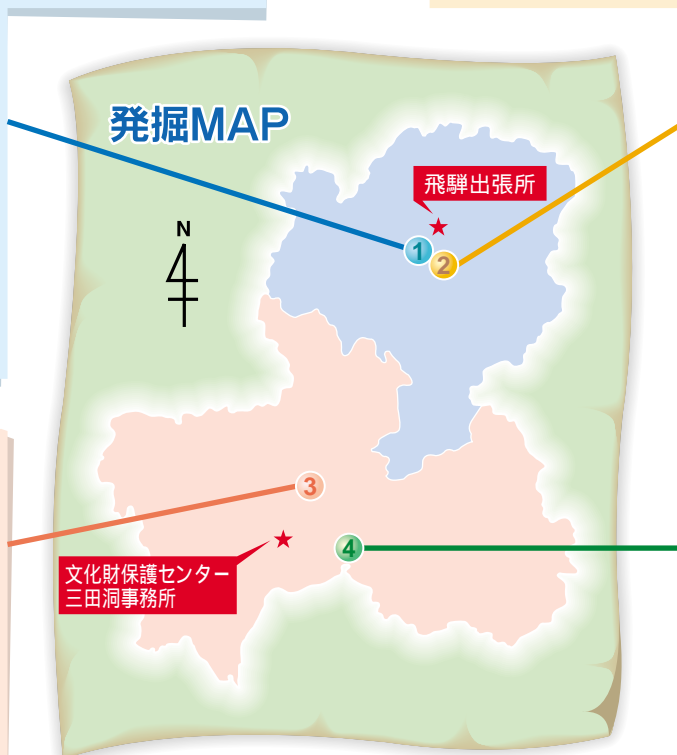
発見した古墳



石室内の遺物(土師器の甕)

この古墳の石室は、天井石及び側壁石の上方は失われていましたが、残存する基底石から、長さ7.5m、

幅1.6mの大きさであることが分かりました。また、周溝も確認でき、墳丘の規模は直径約14mの円墳と推測されます。石室はチャートと呼ばれる石材を使って構築され、石室の奥壁側から土師器の甕と鉄製品が出土しました。



発掘MAP

## ② のうち 野内遺跡(高山市)

古墳 古代 中世

### 古代の鍛冶工房跡群か?!

野内遺跡の調査は、今年度で3年目になります。丘陵南裾の緩斜面に立地する調査区は、平成14年度に一部の調査を行っており、古代の鉄鍛冶を行う官営工房的な集落と考えられる遺構・遺物を確認しました。今年度の調査でも、同様な遺構を検出しており、緩斜面全体に集落が広がっていたと思われます。古代の特徴的な遺構としては、一度築



竪穴状遺構の中の炉跡



水田跡に残された多数の足跡

いた炉の上にもう一度作り直した炉をもつ竪穴状遺構や同じ遺構内に炉と竈が併設される竪穴住居跡があります。また、古墳時代中期(5世紀頃)の焼失住居跡も確認しました。一方、丘陵斜面下の低湿地に立地する調査区では、中世以前と考えられる水田や溝の跡が見つかりました。水田跡は洪水などによって運ばれた砂で埋没しており、当時の人々の足跡がそのまま残っていました。

## ④ ひがしの 東野遺跡(坂祝町)

縄文 古墳 古代 中世

### 古墳時代前期の大型掘立柱建物跡を発見!!

東野遺跡は、木曾川の河岸段丘上にあります。昨年度の調査により、古墳時代前期及び同後期の集落跡であることを確認していましたが、今年度の調査でも、古墳前期の竪穴住居跡3軒及び、同後期の竪穴住居跡2軒などが見つかりました。今年度の調査の成果として特筆すべきは、東西2間(4.3m)、南北8間(14.5m)にも及ぶ大型の掘立柱建物跡(古墳時代前期)



竈の中から出土した土師器の壺

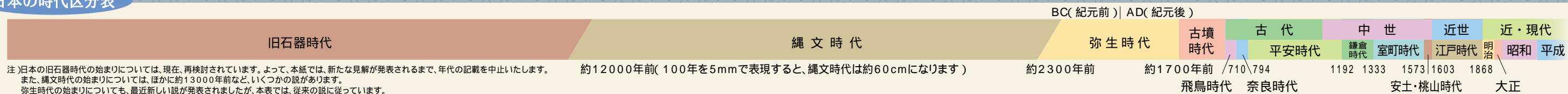


大型掘立柱建物跡

を発見したことです。この時期で、このような大型の建物跡の発見は県内においては例がないため、どのような機能を果たしたかは不明ですが、この集落の特殊性を示す重要な発見と思われる。

このほかにも、縄文時代から中世にかけて(弥生時代を除く)の土器や石器などの遺物が出土しました。

## 日本の時代区分表



# 縄文土器をみて学ぶこと



三輪 晃三

皆さんが、これから縄文土器というタイトルの白紙のキャンパスに文様を描くとしたら、どのような割付けをし、どのような順序で描きますか？例えば飾りや把手などを、どこに何個付けますか？土器の口(口縁部)、底(底部)のどちらから描きますか？縄文土器をじっくり観察すると、土器を作った際に、当時のような順序で文様を施した(施文順序)のか、あるいは文様の割付けはどうだったのかを知ることができます。1つの土器で検証してみましょう。

写真1は揖斐郡藤橋村塚奥山遺跡で出土した、縄文時代中期後半(今から約5,000年前)の土器(残存高約24cm・口径約19cm)です。



写真1 検証する土器

まず飾りからみてみましょう。口縁部には大きな「突起」(写真1右側)と、やや小ぶりな突起(同左側)が交互に配置されています。残念なことに後ろ半分は欠けていますが、突起は全部で4箇所付いているようです。突起の直下には「」のような形をした把手が4箇所、突起のない所にも形の異なる把手が4箇所付いています。したがって突起と把手は、規則的に配置されていることがわかります。ところが、例えば突起の側面に描かれた文様を細かく



写真2 突起の左側面



写真3 突起の右側面

く見ますと(写真2・3)左右対称ではありません。

次に土器のおなか(胴部)の文様を観察してみましょう。この土器の文様の種類には、細いソーメン状の粘土ひも(隆帯)、細い棒状の道具で描いた線(沈線)や突いたあと(刺突)、櫛のような道具で引かれたスジ(条線)があります。これらのうち隆帯は、石つぶのないきれいな粘土でできていて、土器をきれいに飾っています。口縁部には隆帯と条線で横方向の文様を、胴部に



写真4 把手の下の様子

は3本の隆帯と沈線と条線で縦方向の文様を描いています。ところで写真4の白線の中を見ると、把手がはがれたあとに隆帯が現れています。このことから胴部の文様を描いてから、把手をはり付けたことがわかります。また口縁部は把手といっしょに形作ってから文様を描いているので、結局この土器は下から上に向かって順に描かれていったといえます。これではせっかく描いた文様が消えてしましますが、実はこの作り方だと手が届きにくい把手のすぐ下まで、文様をきっちり描くことができるのです。

同じようにこの時期のほかの土器をみていきますと、文様や飾りの割付けの単位はやはり4の倍数が多く、口縁部は横方向の文様を、胴部は縦方向の文様を描くことが多いようです。しかし後期初頭(今から約4,500年前)になると、口縁部から胴部にかけてひと筆書きの文様を描く土器が主流になるので、土器を作る上での何らかのルールや流行りが変わったと考えられます。

このように縄文土器をじっくり観察していくと、当時の土器作りのルールと作り手の個性を間近で感じ取ることができます。

## センター掲示板

### 今年度第1回目の現地説明会

### ひがしの 東野遺跡で行われる

発掘調査の様子を広く県民の皆さんに知っていただくために、今年度も3つの遺跡で現地説明会を行います。その第1回目は、坂祝町の東野遺跡で行いました。考古学や歴史に高い関心をもたれる多数の方々の参加があり、会場では多くの質問もいただきました。

#### ひがしの 東野遺跡(坂祝町)

昨年度と今年度の調査により、古墳時代前期17軒、後期5軒の竪穴住居跡を発見しました。このことにより、東野遺跡が古墳時代前期としては、規模の大きな集落であることが判明しました。また、今年度の成果として特筆すべきは、2間×8間の長大な掘立柱建物跡を発見したことです。このような大きな建物は、この時期の遺構としては県内初の例で、今回の説明会の目玉となりました。

説明会当日は、あいにくの雨天にもかかわらず113名もの方々の参加があり、集落跡や大型建物跡の性格について質問されるなど、熱心に見学していただきました。

赤保木遺跡(高山市)と野内遺跡(高山市)の現地説明会については、次号で報告致します。また、当日参加できなかった方々のために、遺跡についての情報をセンターのホームページで紹介しておりますので、ぜひご覧ください。



## センター日誌

- 7月
  - 3(土) 発掘調査報告会(飛騨市古川町公民館)125名
  - 21(水) ぎふまちづくりセンター出前授業  
岐阜高校・加納高校郷土研究クラブ23名体験発掘(八幡前遺跡)
  - 23(金) 親子発掘体験タイムスリップ探検隊(東野遺跡)15組32名
  - 24(土) 縄文土器を観る会7名三田洞事務所来所
  - 28(水) 親子発掘体験タイムスリップ探検隊(赤保木遺跡)14組31名
  - 29(木) 高富中学校2年生5名職場体験(8/6まで)<3日間コース>
  - 30(金) 岩野田中学校他1年生6名職場見学<半日コース>
- 8月
  - 2(月) 斐太高校1年生1名インターンシップ<1日コース>
  - 3(火) 藤橋村徳山民俗資料収蔵庫にて「いんべ遺跡とおの」展示(1/31まで)
  - 23(月) 高根村親子歴史教室6名(飛騨出張所)
- 9月
  - 1(水) 総合防災訓練
  - 12(日) 中八幡古墳検討会21名三田洞事務所来所
  - 16(木) 県民ふれあい会館展示コーナーにてパネル展開催(10/31まで)  
「縄文の遺跡ってどんなもの? 藤橋村徳山地区の遺跡」
- 10月
  - 1(金) 鶯谷高校出前授業
  - 2(土) 東野遺跡(坂祝町)現地説明会
  - 19(火) ハートフルスクエア-G(JR岐阜駅)にて出土遺物展示(10/24まで)
  - 30(土) 赤保木遺跡(高山市)現地説明会

## あしがき

「やったー。見つかった。土器かなあ。」今年の夏も、親子発掘体験「第13回タイムスリップ探検隊」で元気な声が響きました。今年は、坂祝町東野遺跡(美濃地区)、高山市赤保木遺跡(飛騨地区)で開催し、29組63名の皆さんが遺跡の発掘や遺物の整理作業にチャレンジし、1日親子で熱心に取り組んでいただきました。また、夏休み期間中、職場体験や見学で熱心に学習する中高生の姿がありました。こうした熱意に負けまいと、私たちも発掘調査や整理作業にがんばっております。

11月16日からは岐阜県博物館で発掘速報展を行います。

今年も県内から出土した遺物をたくさん展示します。また、11月13日に高山市の野内遺跡で現地説明会を予定しています。ぜひ、お出かけください。お待ちしております。



# 開催迫る! 平成16年度 (財)岐阜県教育文化財回文化財保護センター 発掘速報展

大平遺跡出土「弥生土器」

～いにしへの美濃と飛騨～

今年度も、発掘調査の成果をみなさんに知っていただくために、岐阜県博物館において「発掘速報展～いにしへの美濃と飛騨」を開催します。美濃、飛騨あわせて14遺跡の紹介を約300点の遺物とパネルによって行います。

揖斐郡藤橋村の塚奥山遺跡・いじま遺跡等より出土した縄文土器、恵那市串原の大平遺跡より出土した弥生時代の土器棺、飛騨市古川町の太江遺跡より出土した古墳時代～平安時代の須恵器や土師器など、様々な時代の貴重な遺物があります。

また、奈良大学教授で(財)大阪府文化財センター理事長の水野正好氏による記念講演会も予定しています。どうぞ皆様お誘い合わせのうえ、ご来場ください。

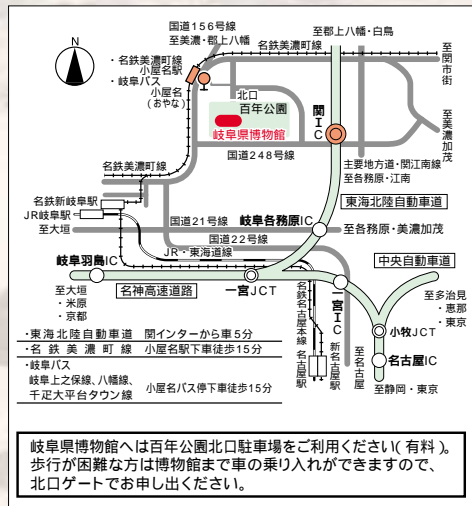
開催期間 11月16日(火)～12月19日(日)  
午前9時30分～午後4時30分(ただし入館は午後4時までです。)

休館日 毎週月曜日

場所 岐阜県博物館(関市小屋名の百年公園内)

記念講演会 11月28日(日)午後1時30分から  
「発掘で甦る「古代のまつり」」

奈良大学教授、(財)大阪府文化財センター理事長 水野正好氏  
入館料 一般320円(260円) 大学生110円(50円)  
小中高生は無料 ( )内は20名以上の団体料金



## センター展示の案内

センターでは、下記の場所において、遺跡の紹介や出土遺物の展示を実施しております。お近くにお越しの折は、ぜひご覧ください。

### 藤橋村徳山民俗文化財収蔵庫

場所: 国道303号沿い道の駅「星のふる里ふじはし」隣接地  
展示: 徳山ダム建設工事に伴う発掘調査で出土した遺物を常時展示  
その他: 入館料必要 開館日(土・日・祝祭日)・展示替えあり

### 岐阜県生涯学習センター展示ホール

場所: 県民ふれあい会館第2棟2階  
展示: センターの活動や発掘調査を実施した遺跡等の紹介をパネル展示  
その他: 岐阜県歴史資料館と一ヶ月半ごと交互に実施しています。

### ハートフルスクエア-Gキュービックギャラリー

場所: JR岐阜駅高架下 岐阜市生涯学習施設2階  
展示: センターの活動紹介や遺物展示を実施(不定期)



藤橋村徳山民俗文化財収蔵庫での展示

このほかにも、出土遺物を市町村の郷土資料館等に貸し出したり、市町村のイベントで展示したりするなど様々な公開をしています。お問い合わせはセンターまで。

Center News

ホームページ

<http://www.maibun.gifu-net.jp>

三田洞事務所

〒502-0003 岐阜県岐阜市三田洞東1-26-1  
TEL. 058-237-8550(代) FAX. 058-237-8551  
e-mail: gifu@maibun.gifu-net.jp

飛騨出張所

〒509-4122 岐阜県吉城郡国府町名張字峠1425-1  
TEL. 0577-72-4784(代) FAX. 0577-72-4690  
e-mail: hida@maibun.gifu-net.jp